

記 録

文書番号	SCJ第23期-280426-23600200-010
委員会等名	日本学術会議若手アカデミー 若手科学者ネットワーク分科会
標題	若手研究者ネットワークアニュアルレポート2015
作成日	平成28年(2016年)4月26日

※ 本資料は、日本学術会議会則第二条に定める意思の表出ではない。掲載されたデータ等には、確認を要するものが含まれる可能性がある。

若手研究者ネットワーク アニュアルレポート2015

2016 年4 月

日本学術会議 若手アカデミー

若手科学者ネットワーク分科会

目次

はじめに.....	3
若手研究者ネットワーク参加団体活動報告.....	4
団体リスト（あいうえお順）：25件.....	5
化学工学会関東支部若手の会 ChEC-E.....	6
化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会.....	7
環境資源工学会 若手の会.....	9
資源・素材学会 資源・素材若手ネットワーキング.....	11
人類学若手の会.....	13
炭素材料学会 次世代の会.....	14
地域農林経済学会 若手の会.....	15
天文教育普及研究会 若手の会.....	17
日本衛生学会若手研究者の会.....	18
日本疫学会 若手の会.....	19
日本顔学会若手交流会.....	21
日本基礎心理学会若手研究者特別委員会.....	22
日本教育行政学会若手ネットワーク.....	24
日本ゲノム微生物学会若手の会.....	25
日本産業衛生学会 生涯学習委員会 若手研究者の会.....	27
日本蚕糸学会 若手の会.....	28
日本視覚学会若手の会.....	29
日本神経化学会若手研究者育成セミナー.....	30
日本心理学会 若手の会.....	32
日本生物工学若手研究者の集い.....	34
日本生理人類学会 若手の会.....	35
日本畜産学会若手企画委員会.....	37
農村計画学会若手ネット.....	39
文化人類学 若手懇談会.....	40
若手研究者のためのラウンドテーブル.....	42
おわりに.....	43

はじめに

昨年のアニュアルレポートでもご報告しましたように、第 23 期から若手アカデミーが学術会議の常設の組織となりました。さらに、昨年の 8 月 28 日に若手アカデミーのもとに「若手科学者ネットワーク分科会」が設置されました。この分科会は、もともと若手アカデミー設置のための準備をしていた「若手アカデミー委員会」の下にあった「若手研究者ネットワーク検討分科会」の活動を発展的に引き継ぐものです。

我々の分科会は、国内の若手科学者のネットワークを形成・維持すること、ネットワークを通じて若手科学者の意見収集と問題提起をすること、を目的としています。若手の研究者を巡っては課題が山積していますが、若手科学者の交流を通じて「未来に責任のある世代」として建設的な議論をし、意見を表明していく場を提供していきたいと思えます。

さて、今回のアニュアルレポートは、2012 年から数えまして 4 回目の発行となるものです。若手科学者ネットワーク分科会発足後の初のレポートでもあります。今回も、多くの「若手の会」の皆様のご協力によって取りまとめることができたことを感謝いたします。

分科会では、日本国内の多様な分野で活躍する若手研究者をつなぐ連絡体制の整備を進めていきます。これまでに運営してまいりましたメーリングリストのさらなる拡充を進めておりますので、各団体におかれましても、積極的にご活用ください。また、分科会としての新たな試みとして、若手研究者の最新の研究動向を広く公表するための研究集会「若手科学者サミット」を定期的を開催することを計画しています。来年度以降のアニュアルレポートでは、こうした活動の報告も進めていきたいと思えます。

今後とも、より充実した若手科学者のネットワーク構築のために活動して参ります。各団体のさらなるご理解とご協力をお願いします。

日本学術会議 若手アカデミー
若手科学者ネットワーク分科会
委員長 宇南山 卓

若手研究者ネットワーク参加団体活動報告

若手研究者ネットワークアニュアルレポート 2015 の発行に際し、参加団体に活動内容を紹介するレポートの作成について、以下の8項目に対する回答を依頼した。

- 1) 若手の会名称
- 2) 代表者の氏名、所属機関、職位等
- 3) 構成メンバー、人数
- 4) 関連のある学協会名称
- 5) 若手の会のミッション
- 6) 活動内容
- 7) 若手の会の課題
- 8) 若手研究者ネットワークに期待すること

団体リスト（あいうえお順）：25件

化学工学会関東支部若手の会 ChEC-E
化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会
環境資源工学会 若手の会
資源・素材学会 資源・素材若手ネットワーキング
人類学若手の会
炭素材料学会 次世代の会
地域農林経済学会 若手の会
天文教育普及研究会 若手の会
日本衛生学会若手研究者の会
日本疫学会 若手の会
日本顔学会若手交流会
日本基礎心理学会若手研究者特別委員会
日本教育行政学会若手ネットワーク
日本ゲノム微生物学会若手の会
日本産業衛生学会 生涯学習委員会 若手研究者の会
日本蚕糸学会 若手の会
日本視覚学会若手の会
日本神経化学会若手研究者育成セミナー
日本心理学会 若手の会
日本生物工学若手研究者の集い
日本生理人類学会 若手の会
日本畜産学会若手企画委員会
農村計画学会若手ネット
文化人類学 若手懇談会
若手研究者のためのラウンドテーブル

化学工学会関東支部若手の会 ChEC-E

1. 若手の会名称

化学工学会関東支部若手の会 ChEC-E

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

小林大祐

東京電機大学工学部環境化学科 准教授

3. 構成メンバー、人数

化学工学会関東支部に所属する若手研究者、技術者。

2015年度は幹事3名。

4. 関連のある学協会名称

化学工学会(関東支部)

5. 若手の会のミッション

化学工学分野における若手研究者・技術者間において、技術や学術的知見を共有・交換することで、相互交流体制を構築することを目的とする組織です。

6. 活動内容

- ・年数回の幹事による運営会議の開催
- ・年1回の若手研究者講演会の開催
- ・「化学工学会年会」、「化学工学会秋季大会」における若手の会主催のシンポジウムの開催

7. 若手の会の課題

- ・運営会議を担う幹事メンバーの増員
- ・主催する講演会などへの参加者の増員
- ・企業研究者との連携

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

学会における若手研究者の位置づけや求められていることなどを共有し、各自の学会において有用なことを取り入れることで、近年課題となっている学会会員数の減少に歯止めをかけるなど、それぞれの学会の基盤の強化につなげるための知識の共有化を期待します。

化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会

1. 若手の会名称

化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会（愛称：Q・NET）

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

中里 勉、鹿児島大学学術研究院理工学域工学系、准教授

3. 構成メンバー、人数

化学工学会九州支部に所属する若手研究者・技術者。2015年度は40名（大学32名、高専7名、企業1名）。

4. 関連のある学協会名称

化学工学会（九州支部）

5. 若手の会のミッション

九州支部内の学生の組織である「若手の会」を側面から支えるとともに、本会（Q・NET）会員が所属する団体間で技術や知識を共有し、人的交流を含めた協力体制を築く。また、活動を通じて化学工学の有用性を社会に示し、会員の増強にも努める。さらに、共同研究へ発展性のある内容に関しては、その橋渡しをし、もって化学工学の発展に貢献することを目的とする。

6. 活動内容

- ・年1～2回の運営会議の開催
- ・「化学関連支部合同九州大会」における「化学工学分野」ポスター賞の審査とりまとめ
- ・化学工学会の全国大会（秋季大会、年会）における若手シンポジウムの企画（2015年度は関西支部CES21主催で関西大学千里山キャンパスにて2016年3月15日に実施）
- ・「九州地区若手ケミカルエンジニア討論会」を運営する学生組織「若手の会」のサポート
- ・「九州地区大学－高専若手研究者研究・教育セミナー」の開催（2015年度は有明工業高等専門学校にて2015年8月29日～30日に実施）

これに加え、2015年度は化学工学誌（会員誌）第80巻、第2号（2016）における小特集「各支部における若手・中堅の組織の活動とその活性化 ～個人レベルの産学連携を若手世代から～」の分担執筆に九州支部代表で中里が携わりました。

7. 若手の会の課題

- ・地方大学の若手教員（特に助教）の著しい現象に伴う「Q・NET」会員の減少
- ・企業に所属する「Q・NET」会員の増強

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

上記7の課題の1つ目にある、若手教員の減少は分野を問わず、我が国の大学（特に旧七帝大などを除く地方大学）において、大きな問題となっていると考えます。助教にかわりポストドク研究者の人数は増加しているものの、不安定なポストであることや数年で所属が変更になることが多いことを鑑みると、学会運営等に積極的に関われる可能性が極めて低いのが現状です。

若手教員の減少は、特に学生（主に大学院生）に対する学会としての指導力の低下を招くことに加え、学会そのものの活力の低下や、数少ない若手教員が本来の研究活動に集中できなくなる等、今後10年程度で大きな問題へと発展すると考えています。

このため、若手研究者ネットワークには、若手大学教員の減少に付随して発生する問題点を整理し、関係機関へ改善要求していただきたく期待しております。

一方で、様々な分野の若手研究者が集い、柔軟な発想力を引き出していくプロセスが重要です。日本発のイノベーションが多数創出されるような、枠組み形成の橋渡しの役割を期待します。

環境資源工学会 若手の会

1. 若手の会名称

環境資源工学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

初代世話人（代表者）所 千晴 早稲田大学 教授

第2代世話人（代表者）村山憲弘 関西大学 准教授

3. 構成メンバー、人数

概ね45歳以下の学会員が対象。企業所属の若手技術者の参画が多いことに特徴を有する。若手の会メンバー51人。世話人（代表者）1人と幹事2人が中心となり企画・運営を行う。

4. 関連のある学協会名称

（一社）資源・素材学会、（一社）廃棄物資源循環学会、（公社）化学工学会、
（公社）日本金属学会など

5. 若手の会のミッション

産官学の若手同士が分野や日常業務を超えた交流を深め、次世代を担う俯瞰的視野を持った研究者や技術者として互いに成長できる場を設けることが本会設立の趣旨である。若手研究者、若手技術者の立場から、環境資源工学会理事会に向けて様々な意見や要望を定期的に発信できる組織に発展させることが目標である。

6. 活動内容

- ①学術講演会時に「若手の会・ランチョンミーティング」と称する講演会を実施する。
- ②ランチョンミーティングでの活動内容を報告記として学会誌に掲載する。
- ③ランチョンミーティングの前日に、若手の会交流会を実施する。
- ④若手の会に寄せられた学会に対する意見や要望を取りまとめ、それらを学会理事会に提言する（学会会長より直々に、正式なご回答を頂いた例がある）。

7. 若手の会の課題

対象世代の関連分野の研究者や技術者を、若手の会メンバーとして定期的に確保すること。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること
専門を異にする若手研究者・若手技術者間のネットワーク形成の機会。

資源・素材学会 資源・素材若手ネットワーキング

1. 若手の会名称

資源・素材学会 資源・素材若手ネットワーキング

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

芳賀一寿（はがかずとし）

秋田大学大学院理工学研究科 助教

3. 構成メンバー、人数

資源・素材学会に所属する若手会員（学生も含む）が対象

2016年3月時点で約300名程度

4. 関連のある学協会名称

環境資源工学会、日本金属学会、資源地質学会など

5. 若手の会のミッション

資源・素材分野では、世界的な鉱物資源の偏在や供給不足等の問題を解決するため、我が国における資源・素材分野の技術・研究者の育成が必要とされている。そこで、本若手の会「資源・素材若手ネットワーキング」では、資源・素材系若手技術・研究者の産学官に渡る幅広いネットワークを構築し、金属鉱業界人材のベース強化を図ることを目的に活動を行う。

6. 活動内容

主な活動内容は以下の通りである。

○年1回のミニシンポジウム

○学生・院生を対象とした勉強合宿への協力と指導補助

○不定期開催の情報交換・人材交流会

7. 若手の会の課題

本若手の会は、産官学が一体となったネットワーキング、交流を行っていることが最大の特徴であるが、資源・素材分野の若手は、世界を股にかけて活躍しているため、メンバー全員を一度に召集することが難しい。また、構成メンバーのほとんどは産業界で活躍する人材であるが、本若手の会のイベント自体が、通常業務（特に民間企業）との関連性が薄いため、上司の許可が得られず、イベントに参加できないメンバーもいる。業界全体が、ネットワーク構築の重要性を理解できるような取り組みを行うことが必要で

ある。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

産学官で活躍する若手人材間のネットワークの強化が図ることで、資源・素材分野全体の結束力が高まり、技術の高度化あるいはよりよい政策が打ち出されることが期待される。

人類学若手の会

1. 若手の会名称

人類学若手の会



2. 代表者の名前、所属機関、職位等

安河内彦輝（三重大学・生命科学研究支援センター・ヒト機能ゲノミクス分野・助教）

3. 構成メンバー、人数

メンバーの専門分野は多岐にわたり、形質人類学、考古学、生理人類学、文化人類学、霊長類学 などさまざまな学問的バックグラウンドをもつ若手が参加しています。2015年4月現在の参加者は100人です。

4. 関連のある学協会名称

特定の学会の組織ではなく、いくつかの学会の若手が集まって運営しているため、会員の所属学会は多岐にわたります。

5. 若手の会のミッション

人類学若手の会は、所属学会に関係なく、広義の人類学に携わる若手研究者・学生の交流を横断的に促進することを目的として、2012年8月に設立されました。

6. 活動内容

人類学若手の会は、特に若手研究者と大学院生を中心に、人類学諸分野の交流と連携を推進することを目的にしています。現在行なっている活動内容は以下の通りです。

- ・オンライン機関誌「Anthropological Letters」の発行
- ・年一回の総合研究集会の開催
- ・その他セミナーや研究関連イベントの開催
- ・メーリングリストなどによる情報交換

詳細はWebサイトをご参照ください。<https://sites.google.com/site/jinruiwakate/>

7. 若手の会の課題

- ・母体となる学会組織がないため、研究集会を運営する資金源が乏しい。
- ・会員は各地にいるので、集まるのに労力がかかる。
- ・就職など、若手研究者の置かれている厳しい現状を改善する。
- ・自然人類学を専門とする会員の数が多く、「人文系」の人類学（考古、心理、文化、歴史など）に携わる若手が少ない。

炭素材料学会 次世代の会

1. 若手の会名称

炭素材料学会 次世代の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

幹事長（2016年） 西原洋知、東北大学、准教授

3. 構成メンバー、人数

炭素材料学会の45歳以下の会員。約400名。

4. 関連のある学協会名称

炭素材料学会

5. 若手の会のミッション

次の世代を担う、炭素材料に関わる若手研究者・技術者の連携を深め、関連分野の発展に貢献する。

6. 活動内容

・論文出版支援

論文出版にかかる費用の補助として、1件につき最大10万円を補助。

・常任幹事会（4月14日、東京にて開催）

常任幹事（幹事長＋副幹事長）、夏季セミナー実行委員、夏季セミナーヘルプデスクが集まり、夏季セミナーに関する詳細な打ち合わせと、次世代の会の一般的事項に関する打ち合わせを実施。

・夏季セミナー（8月、長野）

2016年より次世代の会が主催。会期中に次世代の会幹事会を開催。

・年会インターナショナルセッション関連（12月、千葉）

海外からの招待講師の先生方との交流会を企画予定。

・定例会@年会（12月、千葉）

7. 若手の会の課題

活動の充実化と周知。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

若手世代の要望を国に伝えること、若手研究者に関係する国策情報の迅速な共有化等。

地域農林経済学会 若手の会

'The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics' Youth Network

1. 若手の会名称

地域農林経済学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

本田 恭子（岡山大学大学院環境生命科学研究科、助教）

3. 構成メンバー、人数

54名（2016年3月末現在）。会員は博士前期課程院生から助教や講師まで様々です。地域農林経済学会に所属する若手研究者・院生が中心ですが、非学会員も参加しています。

4. 関連のある学協会名称、その関係

地域農林経済学会（The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics）

若手の会は地域農林経済学会から承認を得ていますが、活動は独立して行っています。
ウェブサイト（<http://a-rafe.org/68/0>）

5. 若手の会のミッション

若手研究者・院生間での研究に関する交流を促し、研究をブラッシュアップできる機会を増やすことを目的としています。

6. 活動内容

毎年10月に開催される地域農林経済学会研究大会の期間中に活動報告会と交流会を開催しています。また、会員の要望に応じて、統計学の勉強会や論文の輪読会、研究報告会を随時開催しています（2011年より計13回開催）。2015年度は質的調査の手法に関する勉強会と研究報告会を開催しました。現在の主な活動場所は京都・神戸です。

7. 若手の会の課題

現在の若手の会の課題は次の3点です。

- ・遠方のため研究会や勉強会へ気軽に参加できる状況にない若手研究者・院生へどのように対応していくか
- ・単なる交流や研究紹介だけに終わらせない工夫をどうするか
- ・自身の研究や職務に追われる若手研究者・院生が多い状況で活動をどう進めていくか

また、関西では大学間の距離が離れているため、大阪駅などターミナル駅の周辺で無料もしくは安価で小規模な会議室（30人程度の）があると便利ですが、そのような部屋の確保が難しい状況です。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

- ・上記課題の解決に向けて、他分野の若手ネットワークと情報交換を行いたい
- ・様々な分野の若手研究者が集まる場であることを活かして、学際融合を進めたり、若手の会が抱える問題の解決に向けて政府等に何らかの働きかけを行うことなどを期待したい

天文教育普及研究会 若手の会

1. 若手の会名称

天文教育普及研究会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

高梨直紘（天文教育普及研究会 副会長） 東京大学 エグゼクティブ・マネジメント・プログラム室 特任准教授

3. 構成メンバー、人数

約 20 名

4. 関連のある学協会名称

天文教育普及研究会

5. 若手の会のミッション

会のビジョン構築など

6. 活動内容

オンラインでの議論と、それを受けての具体的活動

7. 若手の会の課題

議論の活性化

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

異分野との交流やイベントの企画

日本衛生学会若手研究者の会

1. 若手の会名称

日本衛生学会若手研究者の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

原田浩二、京都大学医学研究科、准教授

3. 構成メンバー、人数

若手研究者の世話人が企画をコーディネートしている。

現在世話人は8人である。

4. 関連のある学協会名称

日本衛生学会

5. 若手の会のミッション

若手研究者の交流促進とともに自由闊達な発言を促すことを目的としている。

6. 活動内容

若手研究者の活性化を目的として、自由集会、ポスターセッション、シンポジウムを行ってきている。

7. 若手の会の課題

2015年3月に学会の正式な若手の会として位置づけられ、またそれにより、多くの若手研究者の参加を促している。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

若手研究者が抱える課題を共有し、提案につなげられることを期待します。

日本疫学会 若手の会



日本疫学会
Japan Epidemiological Association

1. 若手の会名称

日本疫学会 若手の会

正式名称：日本疫学会 疫学の未来を語る若手の会 (<http://youth.jeaweb.jp/>)

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

清原康介 東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学第二講座・助教

菊池宏幸 東京都福祉保健局保健政策部・主任（保健師）

3. 構成メンバー、人数

若手の会メーリングリスト登録者 約 300 名

…院生（博士課程）から 30 代が中心だが、自称「若手」であり、年齢層は多様。

中心構成員（＝世話人） 10-15 名

若手の集い（年 1 度の集会）の参加者

…約 100 名 院生（博士課程）から 30 代が中心。

4. 関連のある学協会名称

日本疫学会

5. 若手の会のミッション

学術的な議論のみならず、雑談や近況報告なども交えて気楽な雰囲気での疫学研究の進歩発展と若手疫学者相互の交流を図ることを目的としています。

6. 若手の会、活動内容

「疫学の未来を語る若手の集い」を日本疫学会総会の前日に開催しています（年 1 回）。毎年、若手疫学者の関心が高いテーマを選定、企画しており、疫学会会員、非会員を問わず多数の若手研究者が出席しています。直近 3 年のテーマは下記のとおりです。

2016 年「グローバルな疫学者を目指して ～海外留学 UP-TO-DATE～」

2015 年「Journal of Epidemiology 編集委員に聞く！～いい論文を書くには～」

2014 年「若手研究者の分野間交流～異分野コラボレーション研究の創出を目指して～」

また、2015 年より、メンバーの相互交流と、疫学の学習機会の提供を目指して、新たに合宿をはじめました。その他、「疫学の未来を語る若手の会メーリングリスト」で疫

学研究に関する課題や疑問について若手の会の会員同士で随時、意見交換を行っています。

7. 当該分野の若手の会の課題

若手同士の議論をもっと活発化したい。

学会を支えるためにも若手を中心とした会員数の増加。

8. 若手ネットワークに期待すること

オンライン・オフライン問わず、分野をまたいだ若手研究者同士の交流の場を設定してくださることを期待しています。

日本顔学会若手交流会

1. 若手の会名称

日本顔学会若手交流会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

中洲俊信、株式会社東芝 研究開発センター、研究主務

3. 構成メンバー、人数

顔に興味・関心のある若手研究者および実践家。約 55 名（2015 年 11 月時点）。

4. 関連のある学協会名称

日本顔学会

5. 若手の会のミッション

若手研究者や実践家の交流・議論の機会を増やし、顔学の未来を築いていく。

6. 活動内容

主な活動は、定期交流会、交流会メンバーでの有志活動、メールでの議論です。既存の枠にとらわれない独創的な研究活動と、一般の人々に顔学の面白さを伝えるアウトリーチ活動を展開し、顔学を「深める」「広める」ことを目指して活動しています。

ホームページ

<http://www.jface.jp/wakate/>

7. 若手の会の課題

- ・若手の多くは職場においても一番活躍を期待されており、研究活動も職務も忙しい。そのため、会の活動頻度が限られてしまう。
- ・遠方に住んでいるメンバーの参加が難しい。
- ・運営委員の都合上、運営会議の時間が限られ、将来に向けた検討が十分にできない。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

- ・若手の会および若手研究者同士の交流の架け橋。
- ・他の会からの刺激や運営の参考事例を得るための機会創出。

日本基礎心理学会若手研究者特別委員会

1. 若手の会名称

日本基礎心理学会若手研究者特別委員会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

田谷修一郎，慶応義塾大学日吉心理学教室，専任講師

3. 構成メンバー、人数

年度開始時に42歳以下の日本基礎心理学会会員有志10名。

市川寛子（東京理科大），牛谷智一（千葉大），小川洋和（関西学院），白井述（新潟大），田谷修一郎（慶應義塾），原澤賢充（NHK技研），日高聡太（立教大），山田祐樹（九州大），四本裕子（東京大），和田有史（農研機構）

4. 関連のある学協会名称

日本基礎心理学会

5. 若手の会のミッション

若手研究者間のネットワークを構築し，日本基礎心理学会内外との情報交換を行い，若手会員の研究水準を向上させることを目指す。

6. 活動内容

- 年2回の運営会議の開催（第1回2015年5月28日 於NHK技研・第2回2016年2月26日 於大正大学西巣鴨キャンパス）
- 基礎心理学の研究室検索ポータルサイトPsyPoの開設とその広報（参考：<http://chitosepress.com/2016/04/04/1559/>）
- 学協会年次大会と併催して研究発表会を開催し、優秀者を表彰（「日本基礎心理学会第34回大会サテライトオーラルセッション」2015年12月5日 於大阪樟蔭女子大学）
- 高校生向けの心理学関連デモンストレーションの展示（日本基礎心理学会公開シンポジウム「思いが伝わる科学，思いを伝える科学」2015年10月25日 於慶応義塾大学三田キャンパス）
- 学会誌『基礎心理学研究』への若手会活動報告原稿の寄稿

7. 若手の会の課題

- 基礎心理学分野の研究の活性化
- 若手研究者の環境の改善に向けた調査とサービスの提案

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

- 科研費などの応募資格・審査および交付スケジュールの改善への試み
- 若手研究者の研究・雇用環境の改善に向けた現実的な提案
- 基礎科学の知見および基礎科学分野で学位を取得する過程で身につく技能の一般的な応用可能性を提案し、一般企業・官公庁などアカデミア外への博士人材の広い活用を促したい。

日本教育行政学会若手ネットワーク

1. 若手の会名称

日本教育行政学会若手ネットワーク

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

青木栄一

東北大学大学院教育学研究科

准教授

3. 構成メンバー、人数

日本教育行政学会の若手会員

(毎年 4 月 1 日時点で 45 歳以下の日本教育行政学会の会員)

65 人

4. 関連のある学協会名称

日本教育行政学会

5. 若手の会のミッション

本教育行政学会の若手会員相互の情報交流等を通じた若手会員の研究推進と学会活動の活性化

6. 活動内容

グループウェア (サイボウズ Live) を活用した情報交流

若手ネットワークシンポジウム交流ポスターセッションに参加

7. 若手の会の課題

学会大会において若手を対象とした、若手を主体とした主催イベントの開催を検討している

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

人文・社会科学系分野の重要性を関係機関に伝えていただきたい

日本ゲノム微生物学会若手の会

1. 若手の会名称

日本ゲノム微生物学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

鈴木治夫、慶應義塾大学 先端生命科学研究所、特任准教授

3. 構成メンバー、人数

教員・研究員・学生、約 70 人

4. 関連のある学協会名称

日本ゲノム微生物学会

5. 若手の会のミッション

日本ゲノム微生物学会若手の会は、日本ゲノム微生物学会の支援の基に、微生物学研究所の次世代を担う若手研究者の交流と情報交換を通し、微生物や微生物ゲノムに関わる基礎・応用研究をより活発なものにすることを目的としている。

6. 活動内容

年 1 回開催している研究会では、ゲノム研究に限らず様々な分野の微生物学研究者が集まり、お互いに研究の背景、基盤技術、研究データ等を紹介し、活発に議論し合うことで、知識の向上や新たな研究者ネットワークの構築を行っている。

2015 年度は 9 月 29 日(火)～30 日(水)の日程で八王子セミナーハウス(東京都八王子)にて開催した。若手研究者のニーズに答え、ゲノム情報解析に関する技術セミナーや他分野との交流を目的とした特別講演のほか、企業ランチョンセミナーを開催し、大きな反響を得ることができた。また、本研究会の趣旨に賛同して頂ける企業各社から協賛金を独自に募り、それを学生の参加支援に充てることで、次世代を担う研究者の育成にも微力ながら取り組んでいる。

本研究会のウェブサイト

[http://bioinfo.ie.niigata-u.ac.jp/MicroWakate/?](http://bioinfo.ie.niigata-u.ac.jp/MicroWakate/)

7. 若手の会の課題

学会や研究会、特に共通点を有する分野の若手の会が数多く存在する昨今、今後はどのような趣旨のもと、また、どのような参加者をターゲットにして運営するべきかを検討

する必要がある。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

若手研究者が求めている具体的な支援や制度改革などの意見集約とそれを実現するための提言。他分野との人的、ならびに技術的な交流による学際的研究の創成と発展。

日本産業衛生学会 生涯教育委員会 若手研究者の会

1. 若手の会の名称

日本産業衛生学会 生涯教育委員会 若手研究者の会

2. 代表者の氏名, 所属機関, 職位等

和田耕治, 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国際医療協力局
津野香奈美, 和歌山県立医科大学医学部衛生学教室, 助教

3. 構成メンバー, 人数

日本産業衛生学会の会員のうち, 当会の趣旨に賛同した者 (年齢制限は特になし)
126名 (ML 登録者数)

4. 関連のある学協会名称, その関係

日本産業衛生学会の生涯教育委員会内に設置

5. 若手の会のミッション

産業衛生領域における研究の開始から論文発表, 現場への適応までの方法論や研究技術等を学び, 交流する場を提供する。

6. 活動内容

定例の研究会の開催 (年1回)
メーリングリスト上での討議

7. 若手の会の課題

より多くの参加者を集め, 産業医学領域で活躍する若手研究者間のネットワークを構築し, 研究活動の深化に向けた議論を活発化したい。また, 産業衛生領域の若手研究者の研究活動を活性化させることを目的とした事業を設立したい。喫緊の課題としては, 若手研究者向け論文賞の設立, 研究に関する研修会の開催, 安定予算の獲得であったが, 学会の配慮により実現に向けて進んでいる。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

他の領域の若手研究者と交流し, 研究活動の支援・促進に関する情報交換等。

日本蚕糸学会 若手の会

1. 若手の会名称

日本蚕糸学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

外川 徹、日本大学文理学部、准教授

3. 構成メンバー、人数

日本蚕糸学会に所属する 45 歳以下の若手研究者、大学院生および学部生 200 名

4. 関連のある学協会名称

日本蚕糸学会

5. 若手の会のミッション

- (1) 若手研究者ネットワークとの連携
- (2) 研究集会の開催
- (3) アピール活動
- (4) 研究費の申請
- (5) 書籍の出版

6. 活動内容

2015 年度は、日本蚕糸学会と共同で公開シンポジウム「次世代を担う若手研究者が語る昆虫科学の最前線」を主催した。本会内外から若手研究者 4 名を招聘し、講演して頂いた。また、「カイコによる新生物実験(森精 編)」の改訂版に相当する書籍の出版に関して準備を進めている。学会員全体へアンケート調査を行い、具体的な内容および執筆者の調整を行っている。

7. 若手の会の課題

当該学問分野に興味をもつ若手研究者を増やすとともに、会員の研究の進展、研究意欲の向上に資する活動を行っていく。これにより、当該学問分野の活性化を目指す。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

他分野の学会との合同企画が円滑に行えるように橋渡しをしていただきたい。

日本視覚学会若手の会

1. 若手の会名称

日本視覚学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

光藤宏行、九州大学大学院人間環境学研究院、准教授

3. 構成メンバー、人数

原則として 20～30 歳代の日本視覚学会会員

4. 関連のある学協会名称

日本視覚学会

5. 若手の会のミッション

若手の会会員間の密なネットワークの構築を図り、会員の研究水準を上げ、情報交換を行い、新しい研究分野を作り出すことを目指す。

6. 活動内容

視覚心理実験プログラミングワークショップ

日本基礎心理学会第 34 回大会サテライトオーラルセッション（合同企画）

日本視覚学会 2016 年冬季大会での日本生理人類学会照明研究部会との合同セッション

日本神経化学会若手研究者育成セミナー



1. 若手の会名称

日本神経化学会若手研究者育成セミナー (<http://www.neurochemistry.jp/youth/>)

2. 代表者の方のお名前、所属機関、職位等

小泉修一（仮）、山梨大学医学部薬理学、教授

3. 構成メンバー、人数

年会開催時の活動を基本とする。その際セミナー参加者を構成員としているため年毎の変動が大きい。50-100名。世話人は10名。

4. 関連のある学協会名称、その関係

日本神経化学会 (<http://www.neurochemistry.jp>)。サポートを受けている。

5. 若手の会のミッション

日本神経化学会(JSN)は、世界で最も長い歴史と最大級の会員数を有する「神経化学」の学会で、「脳と神経の病気の原因や発症の仕組みについて分子実体を基盤として明らかにしていく」ことを主たる使命としている。またその実現の手段として、時間を十分にとって議論を尽くすこと、若手を育成すること、を掲げている。本若手セミナーは、この姿勢及び哲学を学び、消化し、著しく発展させること、その人材を発掘・育成すること、をミッションとしている。また、海外の神経化学会(ISN, ASN, APSN)若手グループのカウンターパートとして、交流を行う。

6. 若手の会、活動内容

年1回の神経化学会大会時を主な活動に充てる。第一線で活躍している講師(+若手チューター)+若手研究者(学生、大学院生、ポスドクなど)からなる少人数グループを複数構成し、全員が膝を交えて、サイエンス、進学、留学、就職のこと、さらにラボの先生には相談し難い話題等々、二晩、夜を徹して語り合う。講演のタイトルは、最先端のサイエンスに関する話題以外も含めて極めてバラエティーに富む。こうした自由な討論、大学・研究室の壁を越えた交流を通じ、魅力的な研究者・人間の育成を目指す。OB/OG会も予定しており、さらに大きな交流を模索している。

7. 当該分野の若手の会の課題若手チューター制度を採択した(過去の若手の会参加者で、本会を積極的に先導してくれる人材)。若手チューター発掘とその定着が、本会の発展に重要であると考えている。しかし、一方で、若手はそんなことよりも1分でも研究活動に時間を充てるべき、との意見もあり、バランスが重要と考える。

8. 若手ネットワークに期待すること

他学会（例えば生物学的精神医学会）等との交流を開始した。更にヘテロな人材との交流を通して、新しい研究分野を創出すること、新しい人的交流を広げたい。

日本心理学会若手の会

1. 若手の会名称

日本心理学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

小川健二、北海道大学大学院文学研究科、准教授

鈴木華子、筑波大学グローバル・コモンズ機構、助教

3. 構成メンバー、人数

会員数：119名（2016年3月現在）

若手の会参加資格は、年度開始時に大学院修士課程もしくは博士課程在学中、もしくはその修了時点から10年以内の日本心理学会会員としている。運営委員は17名で構成。

4. 関連のある学協会名称

公益社団法人 日本心理学会

5. 若手の会のミッション

心理学に関わる若手会員相互の交流促進と、幅広い分野間の研究・教育・応用の融合を目指して、若手の育成および将来の心理学の発展に寄与すること

6. 活動内容

【交流企画】

- 日本心理学会年次大会における企画シンポジウム、ラウンドテーブル・ディスカッション、および若手交流会の実施
- キャンプセミナー（合宿形式による研究・臨床交流会）
- 2016年国際心理学会(International Congress of Psychology)における若手向け企画の計画

【情報提供】

- 若手会員向けメーリングリストを通じた情報提供
- 毎月コラムリレーとして若手研究者による自身の活動紹介
- 季刊「心理学ワールド」にて定期的な会の活動紹介
- 会員向けポータルサイトの設置（現在、主に資料の共有場所として活用）

- その他、若手の業績向上に資する活動

7. 若手の会の課題

- 活動の目的や内容を、どのように学会員に周知していくか
- 現在行っている活動に、どのように若手の会会員を取り込んでいくか
- 若手（学生および大学院修了時より10年）という限られた時間および流動性の高い時期に活動している運営委員たちが、どのように運営と活動を持続し、そして次世代へと継続していくか

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

専門分野を超えて若手研究者に関わる課題と日本の今後の学界に関わる課題を共有し、学界のみならず行政や社会に向けて高い発信力で提言していくこと

日本生物工学若手研究者の集い

1. 若手の会名称

日本生物工学若手研究者の集い

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

原田和夫、大阪大学薬学研究科、講師

3. 構成メンバー、人数

日本生物工学会の若手学生・教員を含めた約 100 名

4. 関連のある学協会名称

日本生物工学会

5. 若手の会のミッション

生物工学に関わる若手研究者のつながりを生み、
研究の楽しさ、苦勞、可能性を分かち合うことによって
生物工学を通じて社会への大きな貢献を行う

6. 活動内容

夏のセミナー（年 1 回）

若手会総会（年 1 回）

若手会交流会（年 1 回）

メーリングリストによる情報交換

7. 若手の会の課題

社会人の若手研究者といかにネットワークを広げるか

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

さらなる社会とのネットワークが深まる可能性

日本生理人類学会 若手の会

1. 若手の会名称

日本生理人類学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

元村祐貴（もとむらゆうき） 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部 日本学術振興会特別研究員 PD

3. 構成メンバー、人数

学会の大会開催に合わせて行われる研究会等に学生から若手研究者を中心として 40 名以上が参加

4. 関連のある学協会名称

日本生理人類学会（学会内に設置）

5. 若手の会のミッション

生理人類学を志す若手研究者が大いに語り合い、親睦を深め、研究活動の活性化を図る

6. 活動内容

- ・若手研究者発表会（年 2 回）…日本生理人類学会大会の前日に開催。当学会所属の若手だけでなく、周辺領域の若手研究者を招聘して最新の知見をご紹介いただき、広い視点を持った議論を展開する。2015 年度は国際生理人類学会が日本で開催された影響で、北海道大学にて 1 回のみ開催された。
- ・若手の会国際交流会（不定期）…国際生理人類学会に合わせて開催。上記の研究発表会の内容に加え、さらに現地の若手研究者との国際的な交流を目的とする。2015 年度は千葉にて開催された。
- ・夏期セミナー（年 1 回）…セミナー内の若手の会企画として、学生・若手研究者の交流を深めるためにポスターセッションとワークショップを実施。セミナーでは講習会や本学会研究部会も行われている。2015 年度は京都にて開催。
- ・SNS (Facebook 内グループ、現在 41 名) による情報交換 ・専門書の抄読会

7. 若手の会の課題

若手研究者同士の交流を通じた個々の研究活動の活性化とともに、生理人類学の研究者としての基盤部分、および生理人類学全体に対して若手の会がどのように貢献できるか、今後さらに検討する必要がある。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

若手研究者全体の意見の集約、政策等への提言。(若手研究者の雇用問題など)

日本畜産学会若手企画委員会

1. 名称

日本畜産学会若手企画委員会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

新村 毅（基礎生物学研究所、特任助教）

3. 構成メンバー、人数

博士研究員、助教など 15 名

4. 関連のある学協会

公益社団法人日本畜産学会 (<http://www.jsas-org.jp/index.html>) に属し、「若手奨励・男女共同参画推進委員会」の内部委員会として位置づけられています。

5. ミッション

若手研究者主催のシンポジウムや懇親会を開催し、細分化され高度に専門化した畜産学分野の垣根を超えた会員の交流を図り、相互に補完することにより畜産学研究の進展に寄与することがミッションです。

6. 活動内容

日本畜産学会大会内で開催される本委員会主催シンポジウムでは、開催毎に委員会構成メンバーから中心となる世話人が選出され、世話人の主導により新進気鋭の若手研究者や、若手に負けない熱意を有する経験豊かな研究者に講演して頂いております。これまで、計 15 回のシンポジウムを開催しております（2016 年 4 月時点、<http://www.jsas-org.jp/wakate/pastactivities.html>）。若手研究者を対象とした懇親会も大切な活動のひとつで、畜産学分野における研究者間の新たなネットワーク形成の場を提供し、活性化に寄与しています。既に幾つかの共同研究が始まっているほか、学生会員から研究を中心とした相談も受けております。また、畜産学分野における若手研究者向けの読み物を HP に多数掲載しております（<http://www.jsas-org.jp/wakate/readings.html>）。

7. 課題

若手の力でより魅力的な企画を行うことで、より多くの畜産学分野の研究者に参画していただくことです。

8. 若手ネットワークに期待すること

異分野の若手の会みなさまと有意義な情報交換を行うことで、今後の活動に活かしていきたいと考えております。よろしくお願ひします。

農村計画学会若手ネット

1. 若手の会名称

農村計画学会若手ネット

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

山下良平・石川県立大学・准教授

3. 構成メンバー、人数

若手研究者，学生らを含め約 100 人

4. 関連のある学協会名称

農学系，工学系，人文系で農山漁村地域問題を取り扱っている学協会

5. 若手の会のミッション

専門が異なる研究者や地域との繋がり構築，学会活動のボトムアップ的な活性化

6. 活動内容

年数回の座談会やポスター発表企画

7. 若手の会の課題

若手の人材の数的な減少。活動予算不足。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

小さな規模でも良いので，研究会やセミナーなどの企画を開き，その先に科研費などの共同研究プロジェクトに発展していきたい。

文化人類学 若手懇談会

1. 若手の会名称

文化人類学 若手懇談会

2. 代表者の名前、所属機関職位等

若手ネット連絡担当 永田貴聖（ながた あつまさ）国立民族学博物館 機関研究員

3. 構成メンバー、人数

日本国内の文化人類学を学ぶ大学院生、PD・OD、若手教員等を中心にしたネットワーク。運営には各地域の文化人類学に関する 20 程度の研究会代表ないし連絡係があたっている。

4. 関連のある学協会名称

日本文化人類学会 アジア社会文化研究会 奥州乃疾風 九州人類学研究会
京都人類学研究会 くにたち人類学会 現代人類学研究会 神戸人類学研究会
国立民族学博物館 仙人の会 中四国地区人類学談話会 超域人類学ワークショップ
筑波人類学研究会 東京都立大学・首都大学東京社会人類学研究会
東アジア人類学研究会 北海道歴史文化研究会 まるはち人類学研究会
南アジア学会 早稲田大文化系院生懇話会

5. 若手の会ミッション

文化人類学に関わる若手研究者の交流と現状把握、常勤職へ就職サポート、文化人類学の社会的普及の促進

6. 活動内容

2010 年度設立。各地区の情報を紹介するウェブサイト運営ほか、毎年日本文化人類学会の研究大会時にブースを設けたり懇談会を行うなどして、情報交換につとめている。自主的な組織だが、一部、日本文化人類学会理事の教育委員会や関係機関と連携した活動も行う。

7. 若手の会課題

就職問題(構造的問題への取り組み、個々人スキルアップサポート、シニア研究者の関心の喚起)。文化人類学の社会的普及(文化人類学の社会的プレゼンスを高めるための方策議論)。若手研究者自身が不安定・流動的な状況のなかで、この会をどう持続的に運営し、議論を継続するか。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

学問分野を越えたネットワーク形成。他の分野の方が、若手でどのような活動しているのかを知ること。可能であれば、連携した活動の模索。

若手研究者のためのラウンドテーブル

1. 若手の会名称

若手研究者のためのラウンドテーブル

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

末松裕基 東京学芸大学 講師

3. 構成メンバー、人数

教育経営学に関連した若手研究者および大学院生（推定参加者約 30 名）

4. 関連のある学協会名称

日本教育経営学会

5. 若手の会のミッション

若手研究者の研究環境や教育経営学の今後のあり方を考える

若手研究者同士の交流と問題意識の共有

6. 活動内容

6 月の全国研究大会時のラウンドテーブル開催

7. 若手の会の課題

企画運営の在り方など

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

若手研究者のネットワークづくり

おわりに

2014年10月に発足した若手アカデミーにおいて、2015年9月に若手科学者ネットワーク分科会が新たに設置されたため、2015年度の分科会は今後の活動内容の検討が中心となりました。皆様にご協力いただきながら進めてきた若手研究者ネットワークの運営は、引き続き、若手アカデミーの重要なミッションの1つに位置づけられており、「若手科学者ネットワーク」として継続的に運営されます。一方で、前分科会が2014年9月に日本学術会議のホームページ上で報告した「報告 若手研究者ネットワークの継続的運用に向けて」(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140916.pdf>)で述べられているように、ネットワークの参加登録団体数が少ないことが課題になっています。現在、ネットワーク参加団体数を増やすべく、広く学協会へ呼びかけているところです。若手研究者のネットワークは、若手研究者問題における情報収集や問題提起を行う上で、若手アカデミーにおける政策提言機能にとって非常に重要であり、また、若手研究者が分野や所属を超えて広くつながりをもって研究活動を行うことは、日本の学術全体にとって大きな意味をもちます。今後ともご理解の上、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2016年4月

日本学術会議 若手アカデミー
若手科学者ネットワーク分科会

連絡先：admin-network@youngacademy-japan.org